

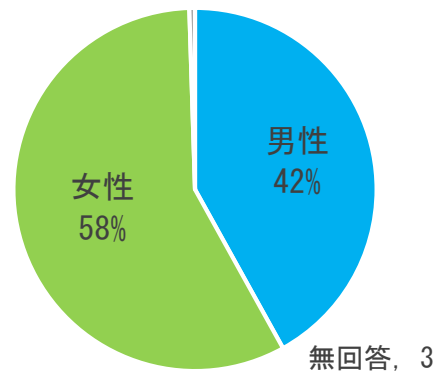
当別町地域福祉計画のためのアンケート調査・ヒアリング調査報告書より
(抜粋)

1. あなたがお住まいの町内会名をお書きください

		人口	配票	回答者
北地区 3,947人	北栄町	994	94	51
	茂平沢	74	6	2
	白樺町	297	29	13
	弁華別	208	19	6
	西町	820	80	29
	春日町	662	62	26
	六軒町	622	60	14
	みどり野	270	24	3
南地区 3,528人	旭町	104	11	2
	緑町	548	54	18
	弥生	334	34	16
	万代町・園生	117	10	8
	錦町	210	23	10
	末広	517	51	30
	美里	347	33	10
	元町	381	37	14
	東町	314	30	14
	下川町	145	14	6
	若葉・上当別	511	48	16
東地区 2,214人	刈雁	196	17	9
	中小屋	162	16	3
	幸町	137	12	2
	栄町	508	50	18
	金沢	207	19	10
	樺戸町	335	33	11
	東裏	265	24	4
	蕨岱町	203	19	7
	川下左岸	137	13	2
	自衛隊	64	4	1
西地区 5,908人	太美西	500	48	12
	当別太	237	22	6
	川下右岸	110	10	2
	太美北	701	67	14
	太美寿	518	50	11
	太美東	422	41	12
	太美中央	759	75	19
	太美南	624	62	23
	太美スターライト	593	57	19
	高岡・ビトエ	93	8	3
	獅子内	531	52	17
	スウェーデンヒルズ	820	82	42
	太美			16
不明・999・無回答				45
		15,597		596

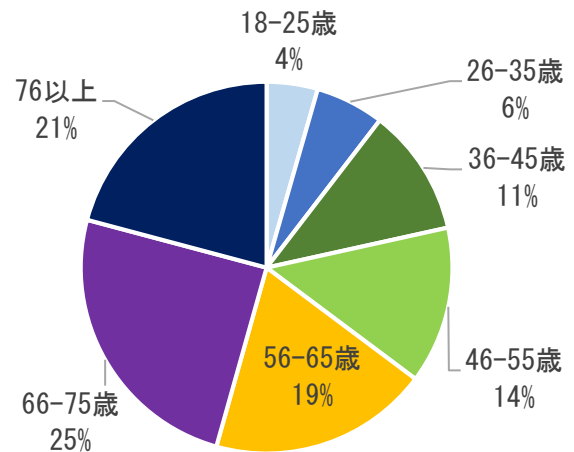
2. あなたの性別を教えてください

性別	Freq.	Percent	Cum.
男性	250	41.95	41.95
女性	343	57.55	99.50
欠損値	3	0.50	100.00
Total	596	100.00	



3. あなたの現在のご年齢を教えてください

年齢カテ	Freq.	Percent	Cum.
20歳代	38	6.13	6.13
30歳代	50	8.06	14.19
40歳代	76	12.26	26.45
50歳代	83	13.39	39.84
60歳代	118	19.03	58.87
70歳代	134	21.61	80.48
80歳以上	87	14.03	94.52
欠損値	34	5.48	100.00
Total	620	100.00	



回答者の最高齢 95 歳、平均年齢は 60.5 歳でした。

性別	年齢カテ				Total
	~30歳代	40・50歳代	60・70歳代	80歳以上	
男性	14	52	141	41	248
	5.65	20.97	56.85	16.53	100.00
女性	24	74	194	45	337
	7.12	21.96	57.57	13.35	100.00
Total	38	126	335	86	585
	6.50	21.54	57.26	14.70	100.00

18-20歳代は6.13%、と最も少なく、次いで30歳代で8.06%でした。70歳代が最も多く、21.61%を占めていました。年齢カテゴリーで見ると、男性・女性とも、60代-70代が50数%という結果でした。

4. あなたは当別町に何年お住まいですか

redi_c1	Freq.	Percent	Cum.
20年以下	171	27.58	27.58
21-40年	193	31.13	58.71
41-60年	98	15.81	74.52
61年以上	109	17.58	92.10
欠損値	49	7.90	100.00
Total	620	100.00	

1年未満の方から93年間お住まいの方までおられ、平均居住年数は35.4年でした。

回答者のうち、21~40年間当別町にお住まいの方が最も多い31.13%でした。

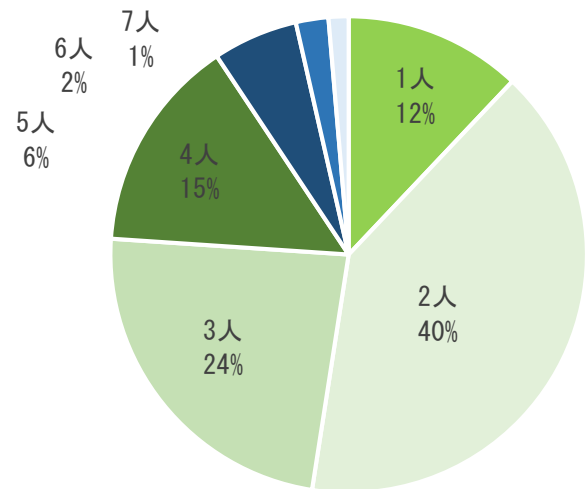
5. あなたが現在お住いの住居は以下のどれにあたりますか。

持ち家（一戸建て）	529	89.5
借家（アパート等）	40	6.8
公営住宅	8	1.3
社宅・寮	5	0.8
下宿・間借り	3	0.5
その他	6	1.0

回答者の約9割は持家の戸建てにお住まいでした。

6. あなたが現在同居されている方は、あなたを含めて何人ですか

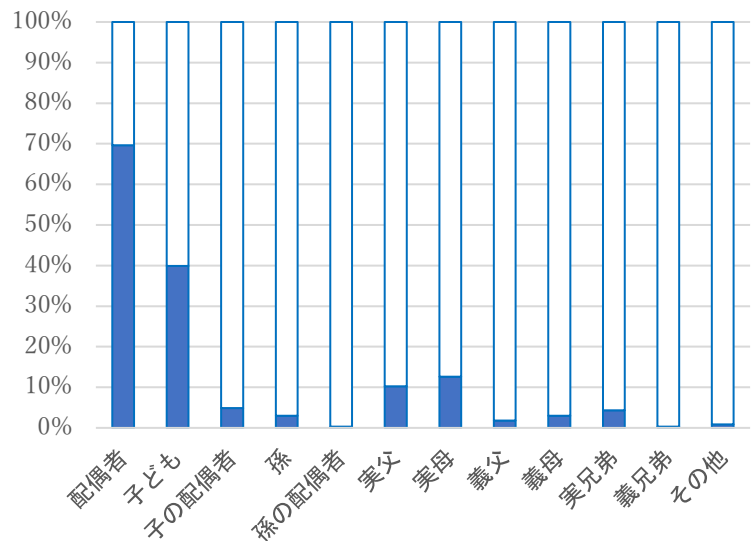
同居人数	Freq.	Percent	Cum.
1人	71	11.91	11.91
2人	238	39.93	51.85
3人	139	23.32	75.17
4人	86	14.43	89.60
5人	34	5.70	95.30
6人	13	2.18	97.48
7人	8	1.34	98.83
欠損値	7	1.17	100.00
Total	596	100.00	



単身世帯 71 人おられ、11.9 %という結果でした。
回答者の平均同居人数は、2.7 人でした。

同居しておられる方すべてに○をつけてください

配偶者	415	69.63 (100%)
子ども	238	39.93 (100%)
子の配偶者	29	4.87 (100%)
孫	18	3.02 (100%)
孫の配偶者	2	0.34 (100%)
実父	61	10.23 (100%)
実母	75	12.58 (100%)
義父	11	1.85 (100%)
義母	18	3.02 (100%)
実兄弟	26	4.36 (100%)
義兄弟	2	0.34 (100%)
その他	7	1.17 (100%)



同居者がおられる回答者のうち、約 7 割が配偶者との同居、約 4 割が子どもと同居されていました。

7. あなたの身の回りに日常生活上での手助けを必要としている人はいますか。

ケア対象	Freq.	Percent	Cum.
同居家族	96	16.11	16.11
別居家族	78	13.09	29.19
なし	410	68.79	97.99
欠損値	12	2.01	100.00
Total	596	100.00	

身近なご家族に日常生活上で手助けを必要としている方が、約3割おられました。

性別	ケア対象			Total
	同居家族	別居家族	なし	
男性	32 13.06	30 12.24	183 74.69	245 100.00
女性	64 18.99	48 14.24	225 66.77	337 100.00
Total	96 16.49	78 13.40	408 70.10	582 100.00

性別と手助けが必要な対象となる方がいるかのクロス集計表は、有意水準10パーセントで有意でした。女性は、同居家族をケアする傾向があるのに対して、男性の回答者では、その対象となる人がいません。これは、女性がもっぱらケアを供給する存在であることを示しています。

年齢カテゴリー	ケア対象			Total
	同居家族	別居家族	なし	
-30歳代	2 5.26	2 5.26	34 89.47	38 100.00
40-50歳代	13 10.40	13 10.40	99 79.20	125 100.00
60-70歳代	61 18.48	51 15.45	218 66.06	330 100.00
80歳以上	19 22.62	12 14.29	53 63.10	84 100.00
Total	95 16.46	78 13.52	404 70.02	577 100.00

年齢カテゴリーと日常生活での手助けが必要な方の存在は、有意な関連がありました。やはり年齢が低い方、そして高い方は対象がなく、他方で、年齢が高くなるにしたがって、同居家族がその対象となっていました。特筆すべきは80歳代になっても、同居家族がケアの対象がいるという結果でした。

同居人数	ケア対象			Total
	同居家族	別居家族	なし	
1人	2	18	49	69
	2.90	26.09	71.01	100.00
2人	39	30	162	231
	16.88	12.99	70.13	100.00
3人	23	16	100	139
	16.55	11.51	71.94	100.00
4人以上	32	14	99	145
	22.07	9.66	68.28	100.00
Total	96	78	410	584
	16.44	13.36	70.21	100.00

同居人数のカテゴリーとケアの対象となる人の存在は、有意水準1パーセントで有意でした。同居人数が多い方が、同居家族に日常生活上の手助けが必要な対象がいることが見て取れます。

職業	ケア対象			Total
	同居家族	別居家族	なし	
農業	7	4	24	35
	20.00	11.43	68.57	100.00
自営業	2	7	25	34
	5.88	20.59	73.53	100.00
常勤	18	24	124	166
	10.84	14.46	74.70	100.00
パート	12	12	48	72
	16.67	16.67	66.67	100.00
専業主婦	21	14	58	93
	22.58	15.05	62.37	100.00
その他	0	3	19	22
	0.00	13.64	86.36	100.00
無職	36	14	110	160
	22.50	8.75	68.75	100.00
Total	96	78	408	582
	16.49	13.40	70.10	100.00

[専業主婦]と[無職]で、同居家族にケアを必要とする方の割合が高くなっています。[専業主婦]の場合は、専業主婦であるために、介護等の対象と同居して介護することができると考えられます。[無職]の場合は、すでに退職している可能性が高く、年齢的に高いため、介護等を必要とする対象が存在することが考えられます。

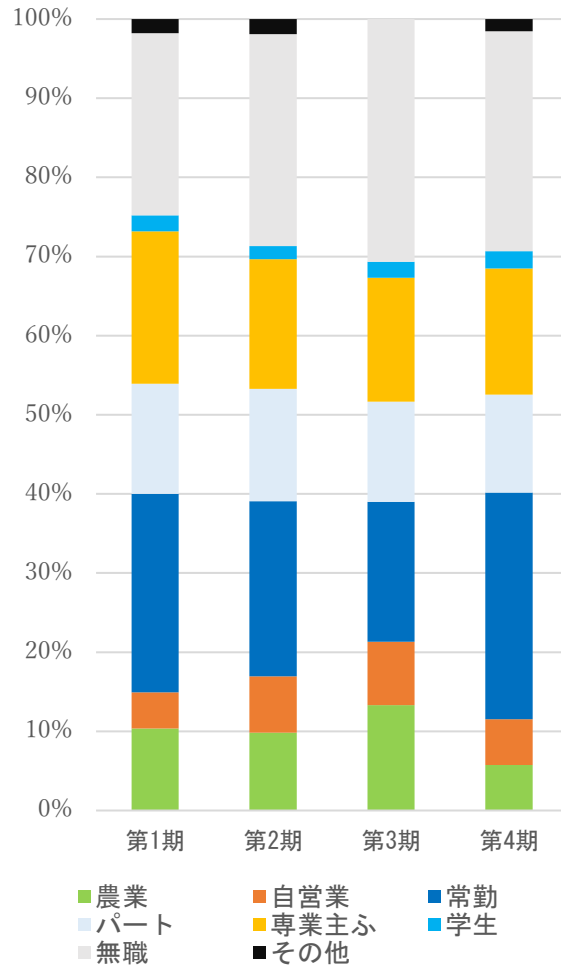
8. あなたの身の回りに介護保険・障がい者福祉・子育て支援などの福祉サービスを利用している人はいますか

ケア対象	Freq.	Percent	Cum.
利用している	179	30.08	30.08
理解している	20	3.36	33.45
いない	353	59.33	92.77
わからない	39	6.55	99.33
欠損値	4	0.67	100.00
Total	595	100.00	

身近に介護保険・障がい者福祉・子育て支援などの福祉サービスを利用する方が約3割おられました。一方で、[制度を知っているが利用はしていない]方も20名おられました。数は少ないですが、このうち5名は同居家族に日常生活上の手助けが必要な方がおられ、4名が別居家族におられます。現在は福祉サービス等を利用せずに家族のみで手助けをされているのか、サービスを利用したくてもできない事情があるのか、また「よくわからない」が40名程度いることを認識しておく必要があります。

9. あなたの職業は次のどれに当てはまりますか。

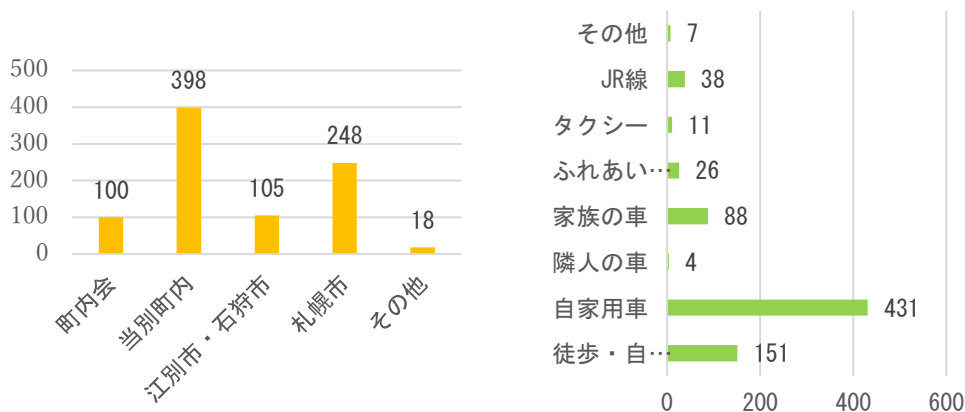
職業	Freq.	Percent	Cum.
農業	34	5.72	5.72
自営業	34	5.72	11.45
常勤	169	28.45	39.90
パート	73	12.29	52.19
専業主婦	94	15.82	68.01
学生	13	2.19	70.20
無職	164	27.61	97.81
その他	9	1.52	99.33
欠損値	4	0.67	100.00
Total	594	100.00	



回答者のうち、最も多い回答が常勤雇用でお仕事をされている方でした。次いで無職ですが、回答者に高齢者の方が多いことも要因として考えられます。

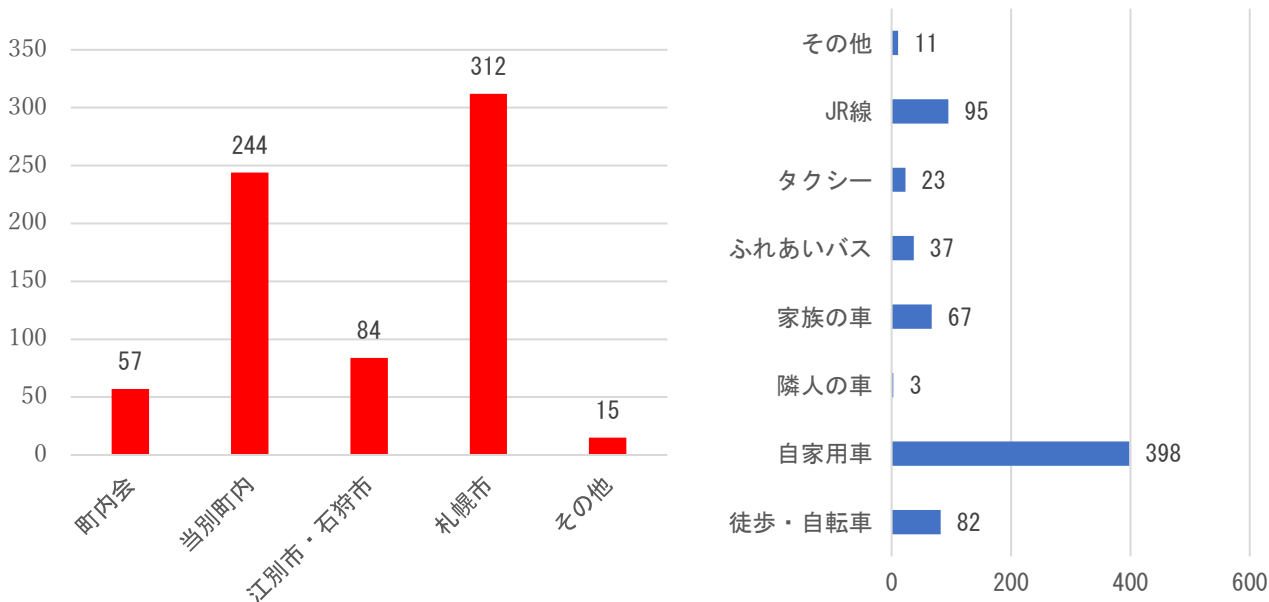
第1期地域福祉計画から比較してみると、第4期の回答者は常勤雇用の方の回答が多くなっています。農業従事者も多い当別町ですが、回答者が高齢者等に偏りがちになるアンケート調査において、会社員などのお勤め人からの意見が入っていることは非常に貴重であると考えます。

10. あなたが次の1)~3)のような用事がある場合、どこでその用事を済ませられますか。また、その際の移動手段は何ですか。1) 日用品・食料品の購入



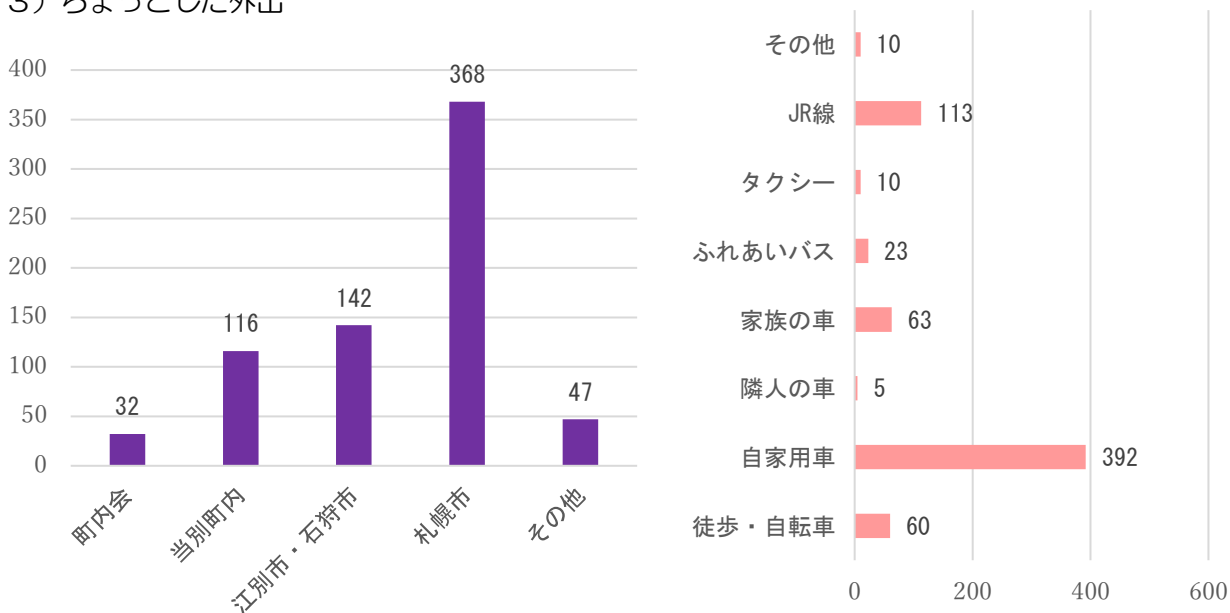
日用品や食料品の購入は、当別町内で済まされている方が 66.8%であり、札幌市へも 41.6%の方が買い物に出かけていることがわかります。移動手段は、72.3%が自家用車であり、家族の車を足すと 87%の方が車で買い物に出かけています。免許・車を持っていない方、車の運転が難しい場合、徒歩や自転車で移動できる範囲内に買い物ができる場所がないと日常生活での不便があると考えられます。

2) かかりつけの医療機関



かかりつけの医療機関は、当別町内の医療機関に通う数(301名)よりも多く札幌市に行かれています。ただ、札幌市の医療機関にのみかかっている方はおられず、当別町内の医療機関にも通われている方がほとんどでした。江別市・石狩市と札幌市をみの医療機関に通院されている方は10名でした。移動手段は買い物同様に自家用車が最も多くなりますが、札幌等への移動もありJRも利用されています。

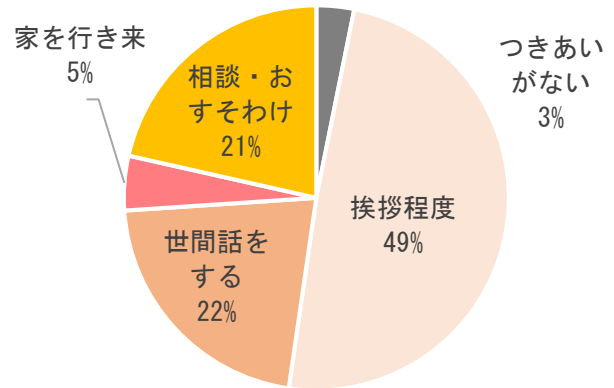
3) ちょっとした外出



ちょっとした外出には、札幌市内に出かけられる方が最も多く、61.7%おられました。次いで江別市・石狩市となっており、日用品などの買い物や医療機関への通院と外出の状況が異なることが見て取れます。移動は他と同様に自家用車・家族の車が多いですが、JR線の利用も多くなります。

11. あなたは普段近隣の方々とどの程度おつきあいをしていますか。

近隣つきあい	Freq.	Percent	Cum.
なし	18	3.02	3.02
挨拶	279	46.81	49.83
世間話	123	20.64	70.47
家行来	26	4.36	74.83
相談	122	20.47	95.30
欠損値	28	4.70	100.00
Total	596	100.00	



性別	近隣つきあい					Total
	なし	挨拶	世間話	家行来	相談	
男性	10 4.18	130 54.39	56 23.43	7 2.93	36 15.06	239 100.00
女性	8 2.45	149 45.57	65 19.88	19 5.81	86 26.30	327 100.00
Total	18 3.18	279 49.29	121 21.38	26 4.59	122 21.55	566 100.00

性別と近所付き合いのクロス集計表です。これはこれまでも、女性は、ある家族において外部とのソーシャル・サポートの窓口となっていることがいわれていますが、当別町においても女性が近隣とより深い関係を構築していました。有意水準 1 パーセントで有意となっています。

11. あなたは普段近隣の方々とどの程度おつきあいをしていますか(つづき)

年齢カテ	近隣つきあい					Total
	なし	挨拶	世間話	家行来	相談	
-30 歳代	10 27.03	23 62.16	2 5.41	0 0.00	2 5.41	37 100.00
40-50 歳代	5 4.07	79 64.23	17 13.82	5 4.07	17 13.82	123 100.00
60-70 歳代	2 0.62	153 47.37	88 27.24	14 4.33	66 20.43	323 100.00
80 歳以上	0 0.00	20 25.97	14 18.18	7 9.09	36 46.75	77 100.00
Total	17 3.04	275 49.11	121 21.61	26 4.64	121 21.61	560 100.00

年齢階層と近隣つきあいも有意水準 1 パーセントで有意な関連がありました。年齢が高くなるにしたがって、近隣との関係ははっきりと深くなっていくことが見て取れます。例えば、80 歳代以上の回答者で、近隣関係がない方は存在しません。これは、年齢が高くなることは、居住年数（有意な関連あり）が高くなることと大きな関連しています。居住年数が 40 年以上の方で近隣つきあがない方もいませんでした。世代におけるライフスタイルとも関連があるかもしれません。

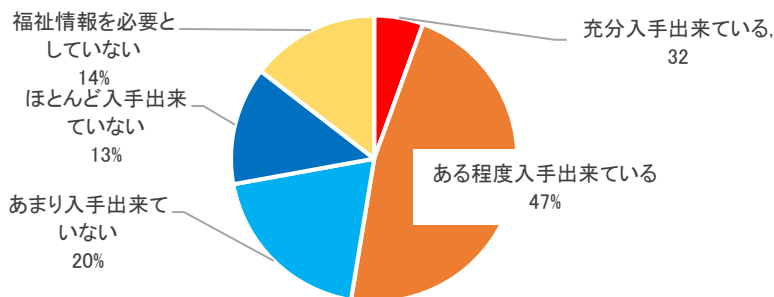
同居人数	近隣つきあい					Total
	なし	挨拶	世間話	家行来	相談	
1人	8 11.94	25 37.31	17 25.37	1 1.49	16 23.88	67 100.00
2人	1 0.45	109 48.66	48 21.43	11 4.91	55 24.55	224 100.00
3人	4 2.99	74 55.22	23 17.16	7 5.22	26 19.40	134 100.00
4人以上	5 3.50	71 49.65	35 24.48	7 4.90	25 17.48	143 100.00
Total	18 3.17	279 49.12	123 21.65	26 4.58	122 21.48	568 100.00

近隣つきあいの程度と同居人数の数も、有意水準1パーセントで有意となりました。同居家族が少ない方が、「相談・おすそわけ」をする割合が高い結果でした。これは、家族以外にも、サポートを受け取れることを意味しています。他方で、割合としては必ずしも高くはないが、一人暮らしの方が、もっともつきあいがいい人の割合が高かったことは着目すべき結果といえます。

12. あなたは介護保険・障がい者福祉・子育て支援などの福祉サービスに関して必要な情報を入手できていますか。

福祉情報入手	Freq.	Percent	Cum.
充分	32	5.37	5.37
ある程度	272	45.64	51.01
あまり	113	18.96	69.97
ほとんど	77	12.92	82.89
不要	84	14.09	96.98
欠損値	18	3.02	100.00
Total	596	100.00	

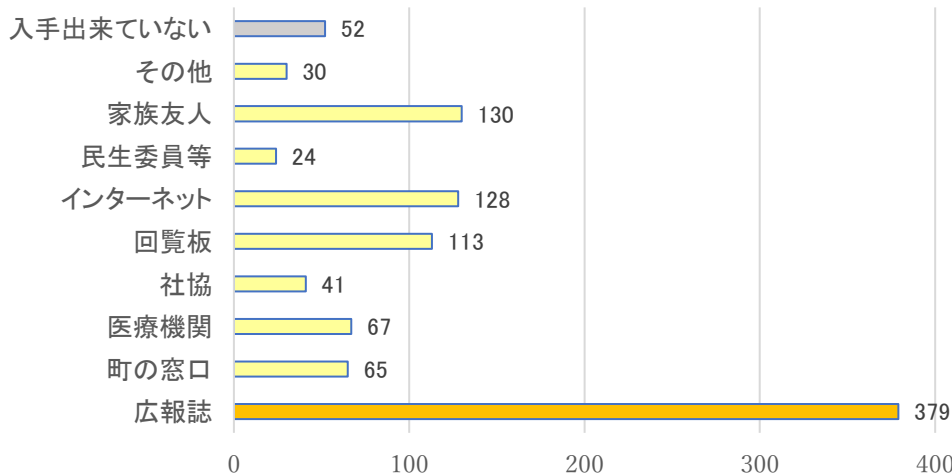
福祉サービスに関する情報の入手については、ある程度情報を入手出来ていると認識されている方が47%おられました。あまり入手できていない方20%、ほとんど入手できていない方13%でした。



福祉情報入手	充分	ある程度	あまり	ほとんど	不用	Total
-30歳代	1 2.63	10 26.32	5 13.16	4 10.53	18 47.37	38 100.00
40-50歳代	3 2.40	64 51.20	20 16.00	15 12.00	23 18.40	125 100.00
60-70歳代	18 5.54	148 45.54	76 23.38	50 15.38	33 10.15	325 100.00
80歳以上	10 12.35	47 58.02	11 13.58	7 8.64	6 7.41	81 100.00
Total	32 5.62	269 47.28	112 19.68	76 13.36	80 14.06	569 100.00

年齢と福祉に関する情報入手の主観的な程度に関しても、有意水準 1 パーセントで有意でした。年齢が上がるにつれて、その情報の程度は十分と考える傾向があります。また、年齢が上がると、情報が不要と考える傾向もあるようにみえます。

13. あなたは介護保険・障がい者福祉・子育て支援などの福祉サービスに関する情報を、どのように入手していますか。



福祉サービスに関する情報の入手については、最も多く回答されているのが、[広報誌]であり、約半数が[広報誌]から情報入手されています。

次いで[家族・友人]が21.8%となっていますが、[インターネット]による情報の入手についても21.5%と約2割の方はインターネットで情報入手されました。

性別	福祉情報入手					Total
	充分	ある程度	あまり	ほとんど	不要	
男性	10	120	45	33	33	241
	4.15	49.79	18.67	13.69	13.69	100.00
女性	22	152	68	43	51	336
	6.55	45.24	20.24	12.80	15.18	100.00
Total	32	272	113	76	84	577
	5.55	47.14	19.58	13.17	14.56	100.00

性別と福祉情報の入手に関するクロス集計表です。男女ともにある程度の情報は入手する傾向にあるとともに、「不要」と感じる回答者は少ないことが分かりました。

[広報誌と回答した方]

Contingency Tables			
年齢4カテ	q13_01		Total
	0	1	
30代以下	41	47	88
40代50代	53	106	159
60代70代	84	167	251
80代以上	34	53	87
Total	212	373	585

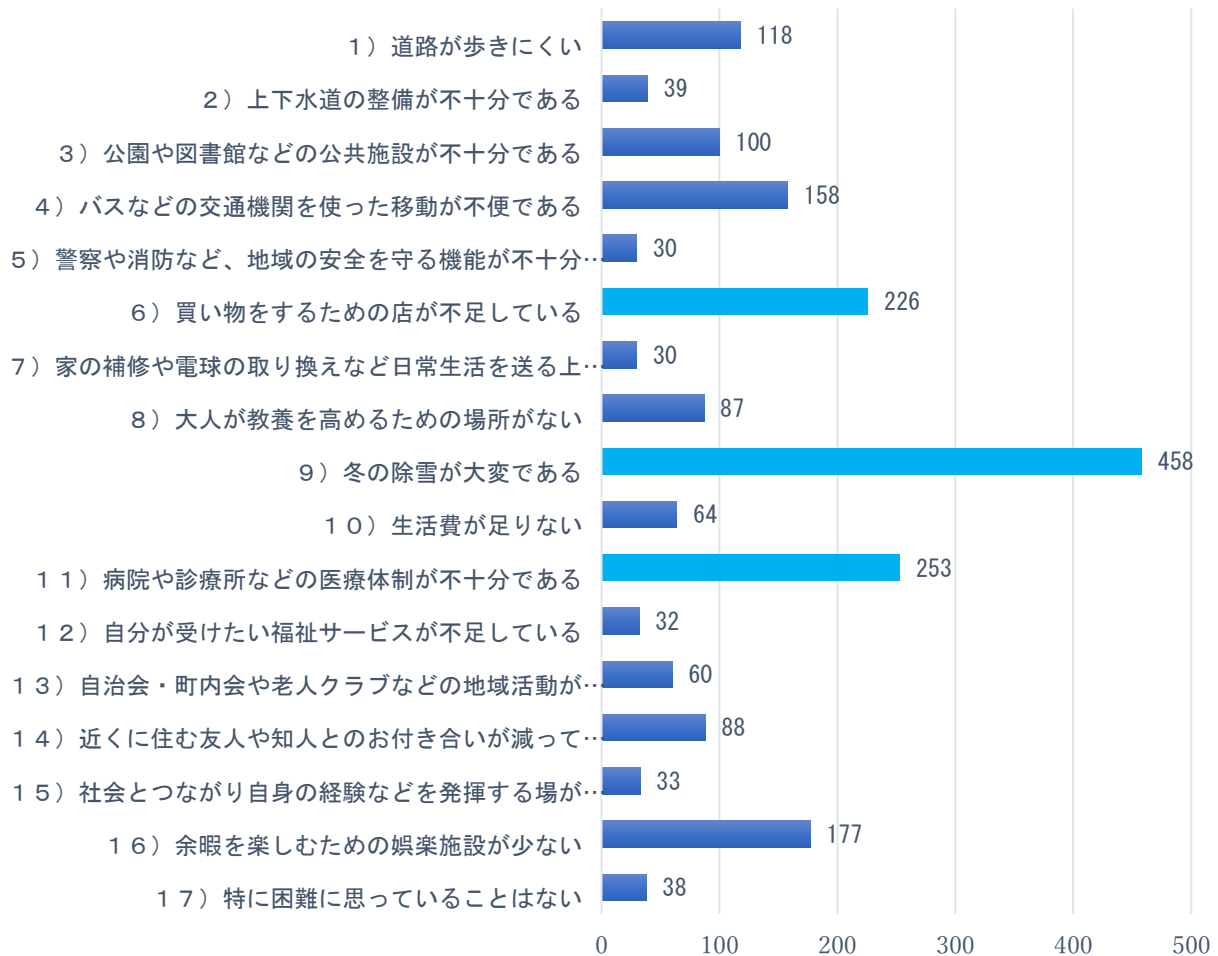
40代以降の方は広報誌を情報源にしている方が多くなります。

[インターネットと回答した方]

Contingency Tables			
年齢4カテ	q13_06		Total
	0	1	
30代以下	60	28	88
40代50代	107	52	159
60代70代	209	42	251
80代以上	83	4	87
Total	459	126	585

50代より若い方の半数はインターネットから情報を得ています。

14. あなたご自身が現在当別町で生活をする上で困難に思っていることはありますか。



回答者の最も多くの方が挙げているのが、[冬の除雪が大変である]でした。回答者の4分の3の人が困難に感じている数になります。次いで、医療体制の不十分さや、買い物をするための商店の不足など、地域生活に欠かせない社会資源の不足が困難として表れています。また、交通など移動の不便さや余暇を楽しむ娯楽施設などについて、が続いている点も着目すべき点でしょう。

生活困難数						
性別	0個	1個	2個	3個	4個以上	Total
男性	33	44	44	40	89	250
	13.20	17.60	17.60	16.00	35.60	100.00
女性	17	46	65	74	141	343
	4.96	13.41	18.95	21.57	41.11	100.00
Total	50	90	109	114	230	593
	8.43	15.18	18.38	19.22	38.79	100.00

回答者で最も困難の数が多い15個を2名の方がチェックしていました。生活に関して困難を感じる数は、ジェンダーと有意な関連があります。概して女性の方が「困難が多い」と感じる傾向があります。これは、女性の方が平均寿命が長いことや、一人暮らしになる傾向が高いこと。また、生活において中心的な存在となるからでしょう。ただ生活上の困難が「4個以上」と答えた回答者は40代50代が多かったですが、困難は「0個」と答えた方は50名、年齢階層は、80歳以上が多かったです。

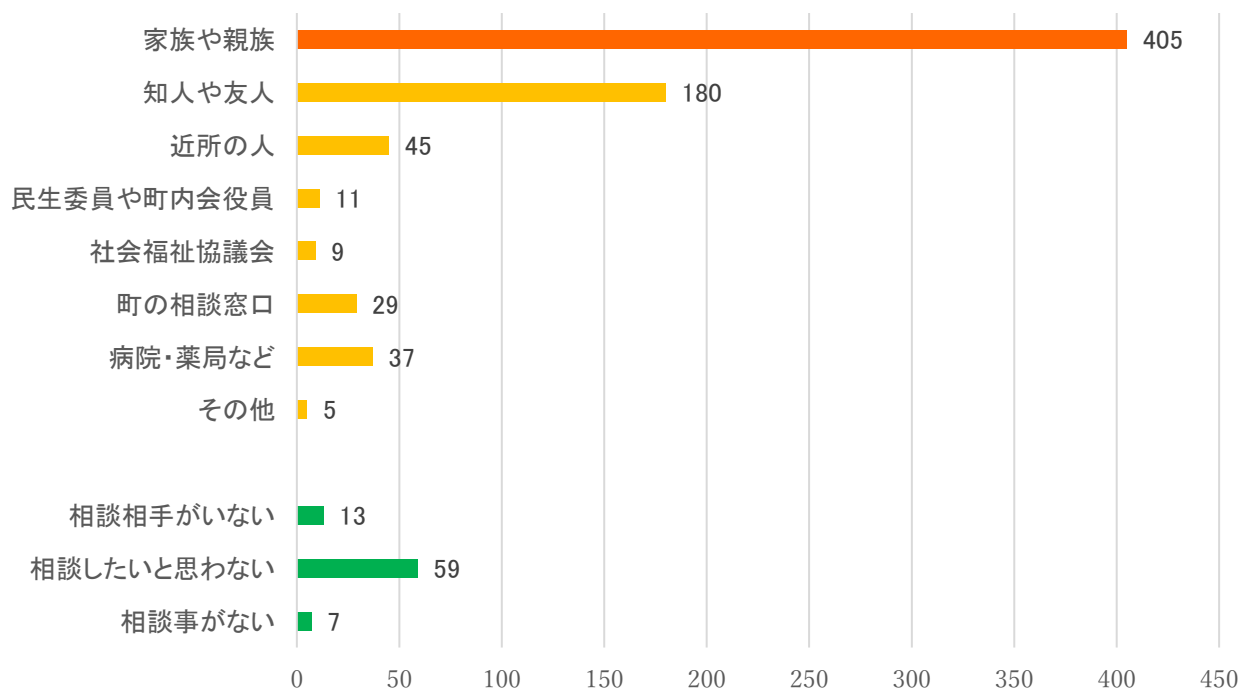
14. あなたご自身が現在当別町で生活をする上で困難に思っていることはありますか。(つづき)

同居人数	0個	1個	2個	3個	4個以上	Total
1人	3 4.23	9 12.68	13 18.31	15 21.13	31 43.66	71 100.00
2人	22 9.24	40 16.81	42 17.65	51 21.43	83 34.87	238 100.00
3人	10 7.19	16 11.51	32 23.02	26 18.71	55 39.57	139 100.00
4人以上	15 8.72	25 14.53	23 13.37	22 12.79	87 50.58	172 100.00
Total	50 8.06	90 14.52	110 17.74	114 18.39	256 41.29	620 100.00

生活における困難を感じる事項の数と同居人数は、かなり統計的に有意に近い結果でした。ただ、同居人数が増えれば、困難に感じる事が少なくなるかというとはそうではなく、一人暮らしの方が、困難を感じる事柄が0個の割合が高いことは興味深い結果です。他方で、4個以上カテゴリーは、同居人数が最も高い4人以上で割合が高くなっていました。

ほか、職業との有意な関連はなかったものの、職業が「農業」の場合は、生活困難数が0個のカテゴリーで割合が高く、「無職」の場合は4個以上が高くなっていました。

15. あなたは生活上の不安や悩みについて誰に相談したことがありますか。



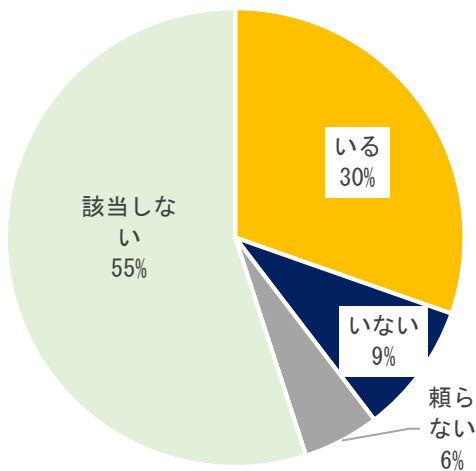
相談相手として最も多く回答されているのが、約7割の「家族や親族」で、次いで約3割の「知人や友人」となっています。民生委員や町の窓口など、相談事があっても相談に出かけていない可能性があります。実際には13名の方は「相談相手がいない」、[相談したいと思わない]が59名おられます。

16.あなたは次にあげる 1)～ 9)の事柄で頼れる人はいますか。

	子ども の世話 や看病	子ども以 外の介護 や看病	重要な事 柄の相談	愚痴を 聞いて くれる 人	喜びや悲 しみを分 かち合う こと	いざとい う時のお 金の援助	日ごろの ちょっと した手助 け	家を借り るときの 保証人 を頼むこ と	成年後 見人・保 佐人を 頼むこと
いる	158	159	405	427	458	213	377	201	132
いない	48	90	48	41	36	100	47	55	69
頼らない	28	31	40	38	20	136	58	36	55
該当しない	286	232	39	32	19	74	44	224	252
999	76	84	64	58	63	73	70	80	88

最も頼れる人がいる項目は、「喜びや悲しみを分かち合うこと」で、最も頼れる人がいない項目は、「いざという時のお金の援助」でした。項目によって頼れる状況が大きく異なります。「広義の受領的サポート欠如型孤立者」は10名、「狭義の受領的サポート欠如型孤立者」は6名（全ていない方）いました。

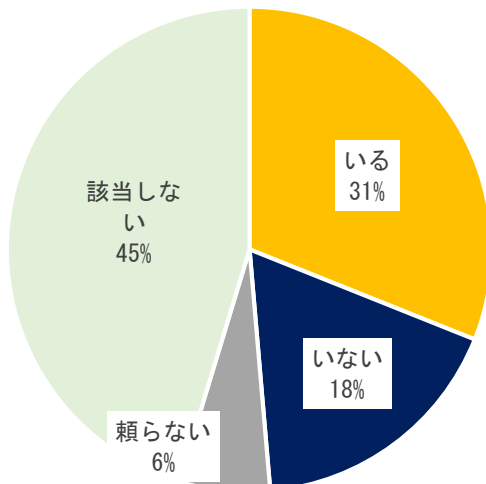
1) 子どもの世話や看病



子どもの世話や看病については、頼れる方がいる方が158名（30%）であり、いない方は48名（9%）でした。子どもの世話や看病があっても頼らないと回答した方が28名おられたことも認識する必要があります。

該当しない方が半数を超えていました。子どもがおられない方、子どもが世話や看病を必要としないなどでこちらに回答していると考えられます。

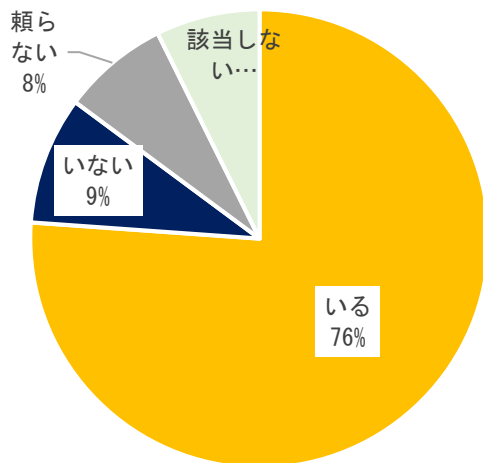
2) 子ども以外の介護や看病



子ども以外の世話や看病については、頼れる方がいる方が159名（31%）であり、前項子どもの場合と同程度でした。一方で、いない方は90名（18%）と、子どもの場合の2倍程度の結果となりました。頼らないと回答した方は子どものとき同様に数%でした。子どもの世話や看病よりも頼りづらい状況があるのかもしれませんが。

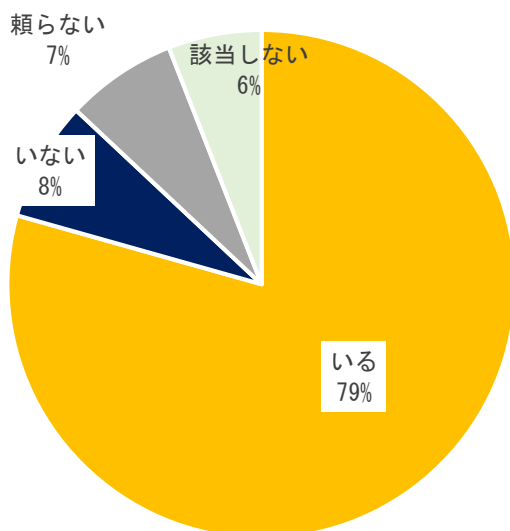
該当しないは、232名（45%）でした。介護や看病は該当しないと考える場合が多い項目といえるかもしれません。

3) 重要な事柄の相談



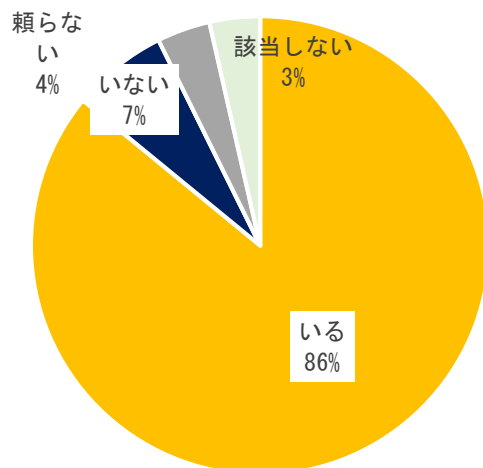
重要な事柄の相談については、405名(76%)と、多くの方が頼る人がいると回答されています。他の質問項目であった相談窓口や専門機関ではなく、相談できる家族や友人がいるという解釈ができます。一方で、頼れる人がいない方も48名(9%)、頼らないと回答される方も40名(8%)いることも認識しておく必要があります。

4) 愚痴を聞いてくれる人



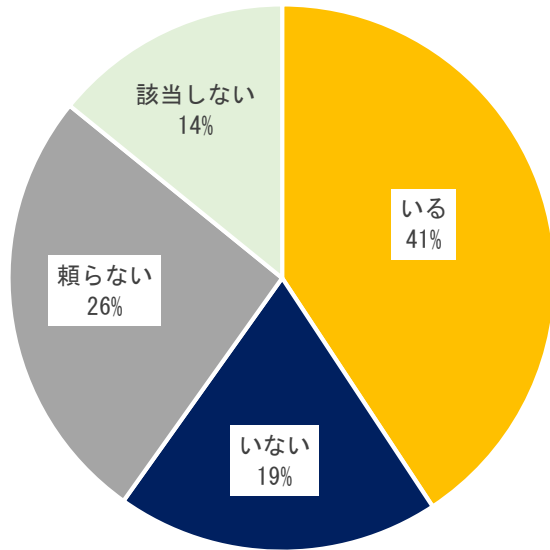
愚痴を聞いてくれる人は、427名(79%)と約8割の方がいると回答しています。相談事同様に、いない方も41名(8%)、頼らない(=愚痴を言わない)方も38名(7%)いることを認識しておく必要があります。

5) 喜びや悲しみを分かち合うこと



先に述べたとおり、最も頼れる人がいると回答した方が多い項目でした。喜びや悲しみを分かち合うことが出来る人がいる方は458名(86%)になります。一方で、36名(7%)が喜びや悲しみを分かち合うことが出来る人がいないこと、頼らないと回答した方(喜びや悲しみを分かちあおうとは考えていない?)が20名(4%)いることを認識しておく必要があります。この方の中で10名が受動的サポートの欠如型の孤立者といえます。

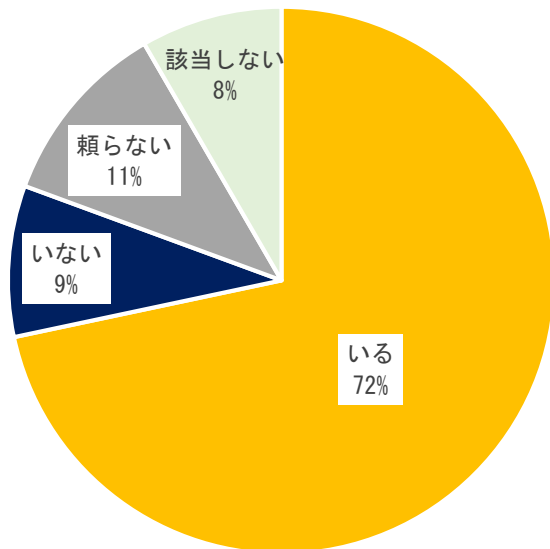
6) いざという時のお金の援助



いざという時のお金の援助については、最も頼れる人がいないと回答した方が多くなった項目です。頼れる人がいる方が213名(41%)、頼れる人がいない人が100名(19%)でした。また、頼らない(=お金の援助を受けない)と回答した方も他の8項目に比べて最も多い回答者136名(26%)でした。

該当しない方が他の項目よりも突出して多いわけではないため、お金の困っている人が少ないという訳ではなく、頼れない(らない)という状況であると考えられます。

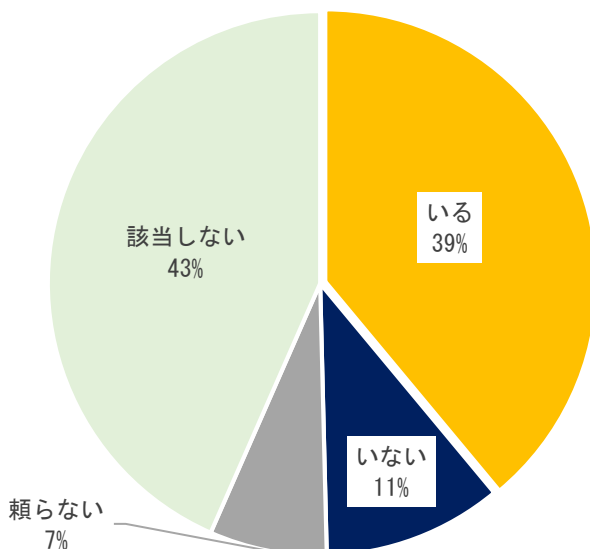
7) 日ごろのちょっとした手助け



日ごろのちょっとした手助けに関しては、頼れる人がいる方が377名(72%)でした。介護や看病について頼れる人の割合に比べると約2倍程度になります。どのような事がちょっとした手助けになるのか、それは家族以外も含まれているのか考える必要があります。

一方で、日ごろのちょっとした手助けでも頼れる人がいない方が47名(9%)、頼らない方が58名(11%)と、約2割いることも認識しておく必要があります。

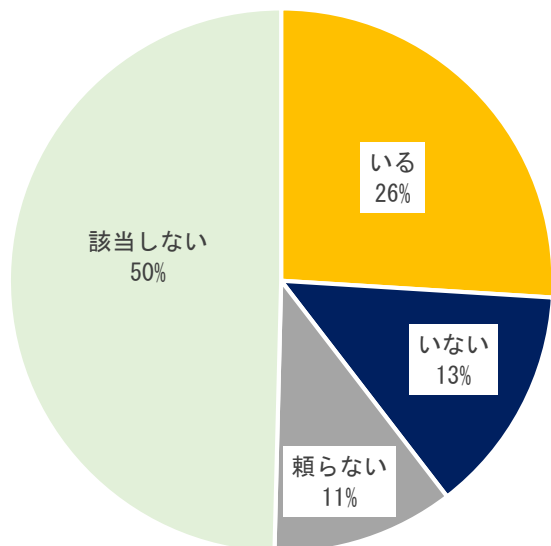
8) 家を借りる時の保証人を頼むこと



家を借りる時の保証人を頼むことについては、該当しない方224人(43%)と多くを占めるほか、いざという時のお金の援助で頼れる人がいると回答した方よりも少ない、201名(39%)という結果でした。

責任が伴う大きな事柄ですので、頼れる人がいない、というよりも頼れる人が少ない状況がみえます。

9) 成年後見人・保佐人を頼むこと

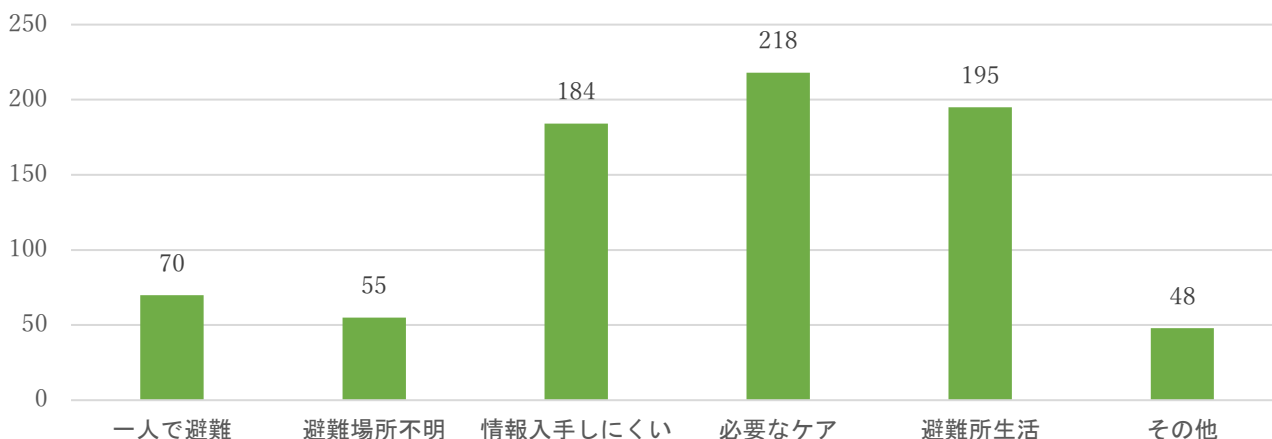


成年後見人・保佐人を頼むことは、最も該当しないと回答した方が多く、252名（50%）でした。また、頼れる人がいると回答した方は最も少なく、132名（26%）でした。判断能力がなくなった際に判断を任せることになる後見人や保佐人は、現段階で該当しないだけでなく、任せられる人を想定することも難しいかもしれません。

いない方も69名（13%）、頼らないと回答された方も55名（11%）でした。

※9項目の事柄のすべての設問について「(頼れる人は) いない」「そのことでは人に頼らない」のいずれかを選択した人を「広義の受領的サポート欠如型孤立者」と定義している。また、9項目の事柄のすべての設問について「(頼れる人は) いない」を選択した人を「狭義の受領的サポート欠如型孤立者」と定義している。

17. 災害が起きた時のあなたの心配事は何ですか。

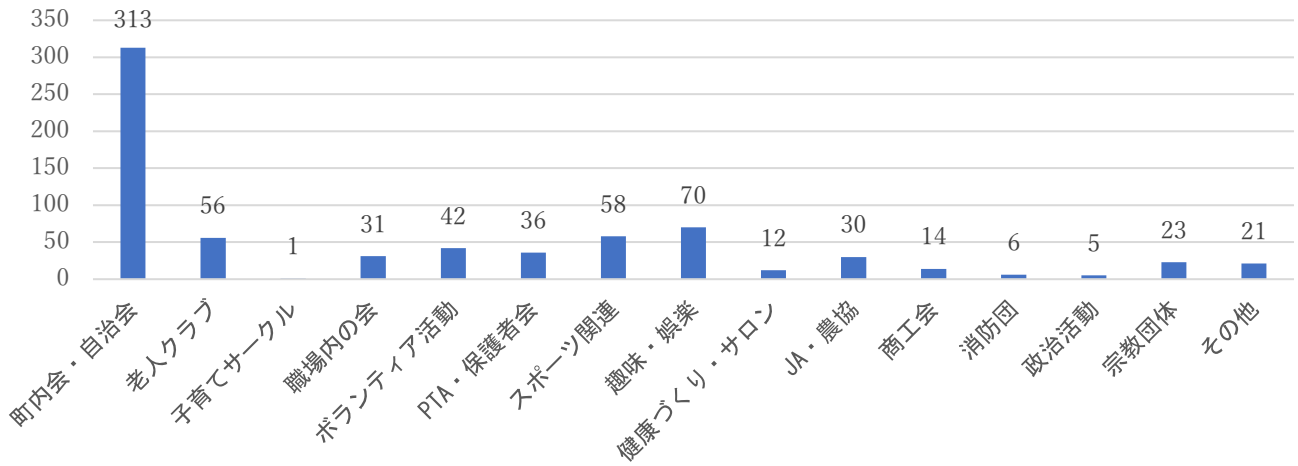


複数回答可能な項目でしたが、最も多く回答されていたのが、[必要な医療・福祉的なケアが受けられるか心配]という項目で、218名（36.5%）の方が心配事としていました。次いで、[避難所で生活することが難しい] 195名（32.7%）、[情報が入手しにくい] 184名（23.4%）と多くの回答がありました。

本項目は、令和2年度当別町障がい福祉基本計画策定にあたって実施したアンケート調査の項目と同じもので、災害時の心配事は災害への備えにつながる地域福祉に関わる項目と考えました。上記のアンケート調査結果では、最も多く回答していたのが、[避難所生活が難しい]で38.5%、次いで[1人で避難することが難しい]が35.5%、[必要な医療・福祉的なケアが受けられるか心配]が29.0%となっていました。やはり何らかの支援を必要としている方にとっては、さまざまな制約が伴う場所での避難生活や集団的な生活に対する不安を抱えていることが明確であったと考えます。

高齢者が多く暮らす当別町において、何らかの支援を必要とする方に対して、画一的な情報提供や環境整備では対応が難しいことをあらかじめ想定した取り組みが求められるといえます。

18. あなたご自身が所属している団体、活動など、当てはまるものすべてに○をつけてください



最も所属者が多かったのは、[町内会・自治会] で約半数が所属していました。組織の数は最も多い方で5個：5名の方が所属されていました。約3割がどこの組織にも所属しておられない方でした。

加入組織数

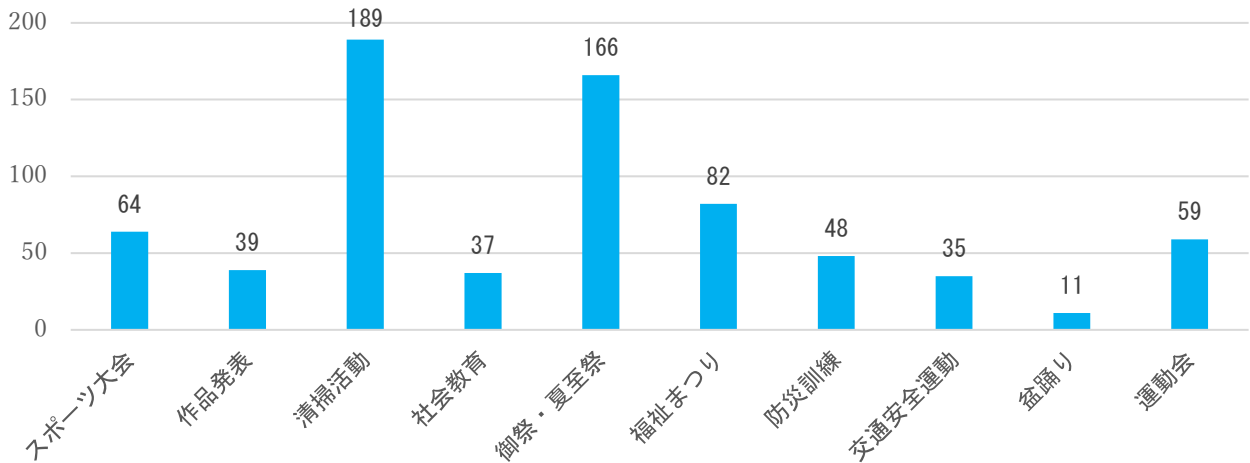
性別	0個	1個	2個	3個以上	Total
男性	73	85	64	28	250
	29.20	34.00	25.60	11.20	100.00
女性	117	116	75	35	343
	34.11	33.82	21.87	10.20	100.00
Total	190	201	139	63	593
	32.04	33.90	23.44	10.62	100.00

加入する組織数については、男女で有意な差異がありませんでした。基本的に男性は、職業に関する組織に参加して、女性は、趣味などに関する組織に所属するなど、その加入組織の種類が異なることがその原因として考えられます。

年齢カテ	0個	1個	2個	3個以上	Total
2030歳代	21	13	3	1	38
	55.26	34.21	7.89	2.63	100.00
4050歳代	36	39	39	12	126
	28.57	30.95	30.95	9.52	100.00
6070歳代	101	127	74	33	335
	30.15	37.91	22.09	9.85	100.00
80歳以上	29	20	23	15	87
	33.33	22.99	26.44	17.24	100.00
Total	187	199	139	61	586
	31.91	33.96	23.72	10.41	100.00

年齢と加入組織数は、年齢が高くなるにつれて多くの組織に加入する傾向が見て取れます。これは、有意水準1パーセントで有意でした。その理由として、仕事から解き放たれることにより、その余った時間を組織で費やすことが考えられます。

19. 以下の活動で、過去3年以内にあなたが参加したものすべてに○をつけてください



年齢カ テ	参加イベント数				Total
	0	1	2	3	
-30 歳代	24 63.16	7 18.42	5 13.16	2 5.26	38 100.00
40-50 歳代	37 29.37	38 30.16	24 19.05	27 21.43	126 100.00
60-70 歳代	136 40.60	96 28.66	51 15.22	52 15.52	335 100.00
80 歳以上	41 47.13	17 19.54	11 12.64	18 20.69	87 100.00
Total	238 40.61	158 26.96	91 15.53	99 16.89	586 100.00

参加イベント数と年齢階層は有意水準 5 パーセントで有意でした。年を重ねられた世代が、多くのイベントに参加することが見て取れます。これも個人の時間的余裕と関連があると考えられます。

ほか、まったくイベントに参加しなかったのは女性が多い傾向は見て取れるものの、参加するイベントの数においては、性別で差異はありませんでした。

同居人 数	参加イベント数				Total
	0	1	2	3	
1 人	41 57.75	12 16.90	9 12.68	9 12.68	71 100.00
2 人	95 39.92	72 30.25	33 13.87	38 15.97	238 100.00
3 人	63 45.32	39 28.06	20 14.39	17 12.23	139 100.00
4 人以上	45 26.16	38 22.09	29 16.86	60 34.88	172 100.00
Total	244 39.35	161 25.97	91 14.68	124 20.00	620 100.00

参加イベントの数と同居人数の関連は、統計的に有意でした。明らかに一人暮らしの方の方が、参加イベントが少なくなっています。これは、一人では参加しにくい、個人(一人)のネットワークを考えるとイベントの情報が伝わりにくいなどの理由があると考えられます。

20. あなたはこれまでのご経験を活かして当別町で活動してみたいとお考えですか

経験による活動	Freq.	Percent	Cum.
はい	84	14.09	14.09
いいえ	446	74.83	88.93
欠損値	66	11.07	100.00
Total	596	100.00	

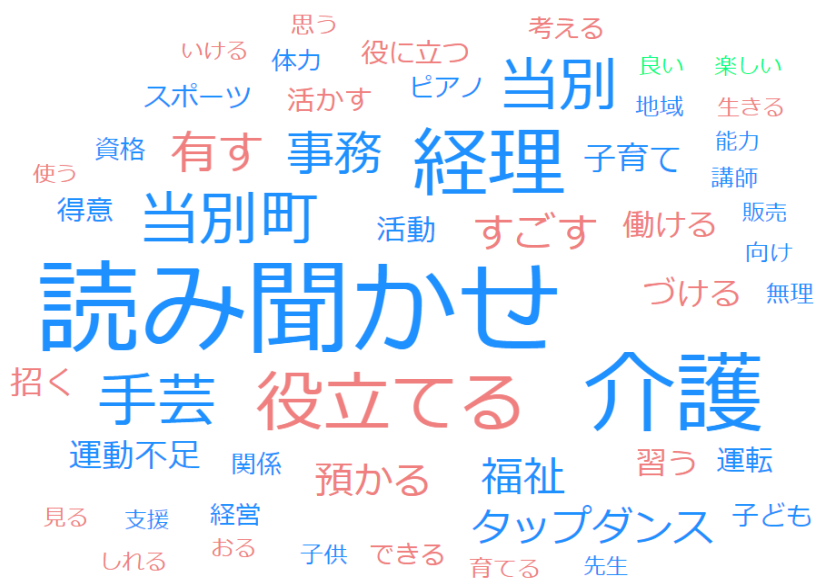
回答者のうち 84 名 (14.1%) の方がご経験を活かして活動してみたいと回答されました。

年齢カテ	経験による活動		Total
	はい	いいえ	
2030 歳代	1	35	36
	2.78	97.22	100.00
4050 歳代	23	98	121
	19.01	80.99	100.00
6070 歳代	53	248	301
	17.61	82.39	100.00
80 歳以上	6	57	63
	9.52	90.48	100.00
Total	83	438	521
	15.93	84.07	100.00

年齢と経験による活動に関しては、有意水準 5 パーセントで有意でした。年齢を経るにつれて、その経験を活かそうという傾向が見取れます。もちろん、経験には、時間＝年齢が必要です。しかし 80 歳以上になると、その経験を活かそうという意欲も低減する傾向にあります。

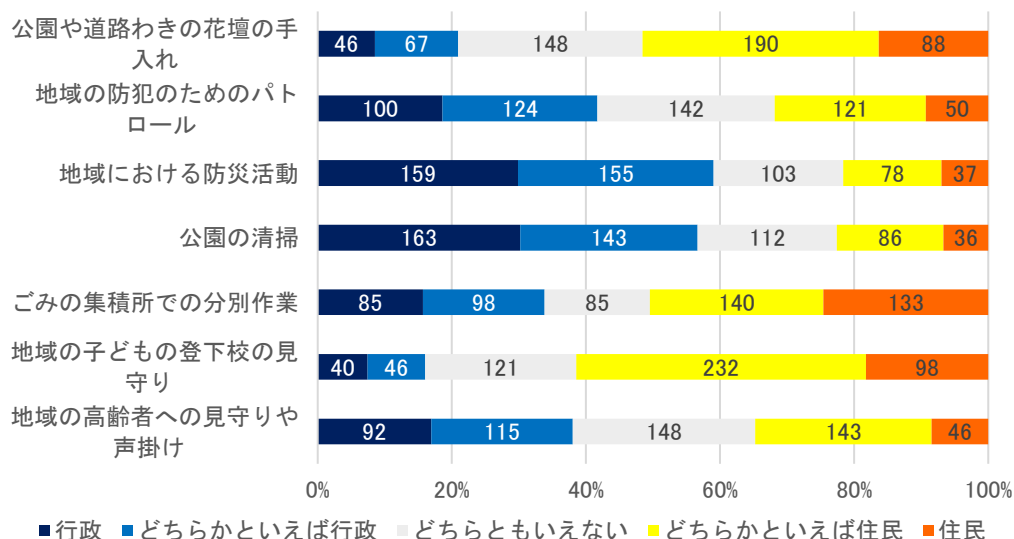
「はい」とお答えになった方におたずねします。これまでのお勤めや子育てのご経験からご自身が得意なことをご自由にお書きください。

ワードクラウド



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<http://textmining.userlocal.jp/>) による分析

21. あなたは以下の項目について行政と住民、どちらが行うべきだと思いますか。



行政か住民のどちらが行うべきだと思うか、という問いについては、項目によって大きくバラつきが出ています。[地域における防災活動] や [公園の清掃] はどちらかといえば行政が行うという意見が多くなっていますが、[地域の子どもの登下校の見守り] や [公園や道路脇の花壇の手入れ] はどちらかといえば住民が行うという意識があるようです。ただ、子どもの登下校の見守りは住民が担う意識が高いものの、高齢者への見守りや声掛けについては行政が行う意識が20%程度高くなるのが非常に興味深いところです。

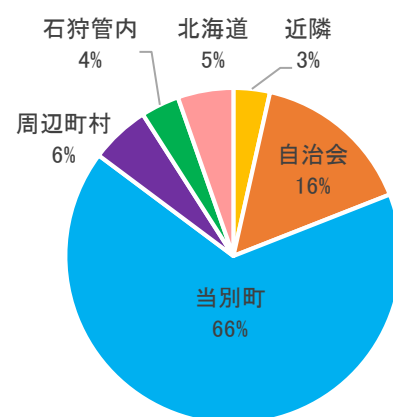
※本項目は道外の他町で実施したアンケート調査でも同様の項目を使用しましたが、[公園や道路脇の花壇の手入れ] では行政側が1割、住民側が6割と同様の結果が出たものの、その他の項目では当別町の住民のほうが行政への依存度が高い傾向にありました。

22. あなたは自分の地域を活性化するとか地域づくりなどと言う言葉を聞いたとき、最も当てはまるとお考えになる地域はどれですか。

個人が思う地域の範囲は、最も多く回答されたのが、[当別町] で66%でした。町民にとっての地域の認識は、町単位と考えられるかもしれませんが、次いで[自治会] が16%と本調査で回答いただいた町内会が地域の単位として認識されていることがわかります。より狭い範囲の近隣や周辺町村、石狩管内、道についてはそれぞれ数%程度の回答となりました。

次のクロス集計表からの分析もあわせて参考にして下さい。

年齢カテ	地域の範囲						Total
	近隣	自治会	当別町	周辺町村	石狩	北海道	
-30 歳代	1	3	25	3	3	1	36
	2.78	8.33	69.44	8.33	8.33	2.78	100.00
40-50 歳代	4	13	80	7	7	9	120
	3.33	10.83	66.67	5.83	5.83	7.50	100.00
60-70 歳代	10	48	210	16	8	14	306
	3.27	15.69	68.63	5.23	2.61	4.58	100.00
80 歳以上	4	19	38	3	0	5	69
	5.80	27.54	55.07	4.35	0.00	7.25	100.00
Total	19	83	353	29	18	29	531
	3.58	15.63	66.48	5.46	3.39	5.46	100.00



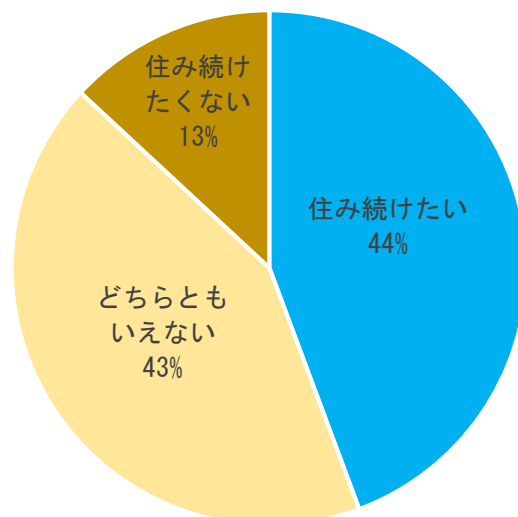
個人が思う地域の範囲と年齢は、有意水準 10%で関連がありました。近隣や自治会という近い範囲の重要性は、年齢が高い方がその割合が高く、逆に、周辺町村や石狩管内などの広い範囲を「地域」ととらえる見方は、若い階層に多いという結果でした。当別町を「地域」と考える方は、すべての年齢を通じて高かったです。

町内会	地域の範囲						Total
	近隣	自治会	当別町	周辺町村	石狩管内	北海道	
東地区	3	6	38	3	0	9	59
	5.08	10.17	64.41	5.08	0.00	15.25	100.00
西地区	6	29	117	15	9	6	182
	3.30	15.93	64.29	8.24	4.95	3.30	100.00
南地区	5	19	85	8	5	4	126
	3.97	15.08	67.46	6.35	3.97	3.17	100.00
北地区	2	25	92	3	3	9	134
	1.49	18.66	68.66	2.24	2.24	6.72	100.00
Total	16	79	332	29	17	28	501
	3.19	15.77	66.27	5.79	3.39	5.59	100.00

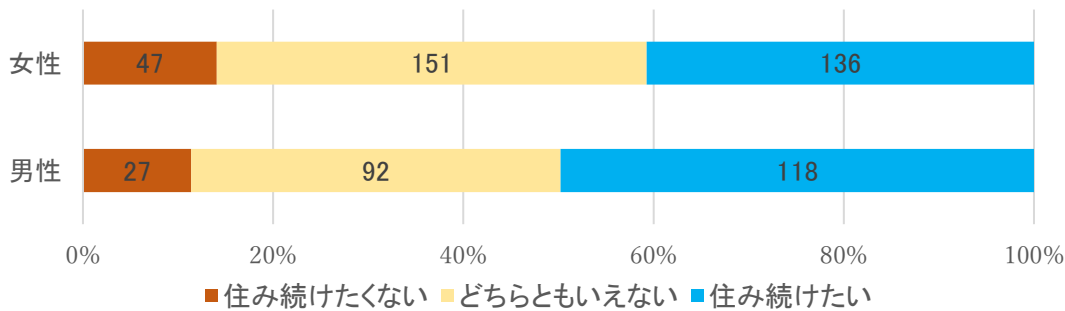
有意水準 5%で、4つの地区と認識する地域は関連がありました。東地区が、相対的に狭い地域を「地域」と認識していました。北地区は、近隣よりも、[町内会]を「地域」と認識する人の割合が高くなっています。また、どの地区でも [当別町] が最も地域として認識されていました。

23. あなたは現在の当別町の状況を考慮すると、今後も当別町に住み続けたいと思いますか

年齢カ	住み続けたいか			Total
	住み続け	どちらと	住み続け	
-30 歳代	7	25	6	38
	18.42	65.79	15.79	100.00
40-50 歳代	55	55	16	126
	43.65	43.65	12.70	100.00
60-70 歳代	137	137	46	320
	42.81	42.81	14.37	100.00
80 歳以上	53	22	4	79
	67.09	27.85	5.06	100.00
Total	252	239	72	563
	44.76	42.45	12.79	100.00



住み続けたいと考える方は、高い年齢で割合が高く、住み続けたくないと考える方は、その逆でした。年齢を経ると居住年数が高くなり、近隣との関係も密接になる傾向があります。また、年齢が高いと他地域に移動しにくくなるという側面もあります。それらが如実に結果として出たものと思われます。



住み続けたいか				
性別	住み続け	どちらと	住み続け	Total
男性	118	92	27	237
	49.79	38.82	11.39	100.00
女性	136	151	47	334
	40.72	45.21	14.07	100.00
Total	254	243	74	571
	44.48	42.56	12.96	100.00

女性よりも男性の方が住み続けたいと回答していました。これは、近似的に有意でした。女性は、婚姻により移住してくる可能性が高いという意味では、居住年数は男性よりも短いと言える。それが大きな理由であると考えられます。

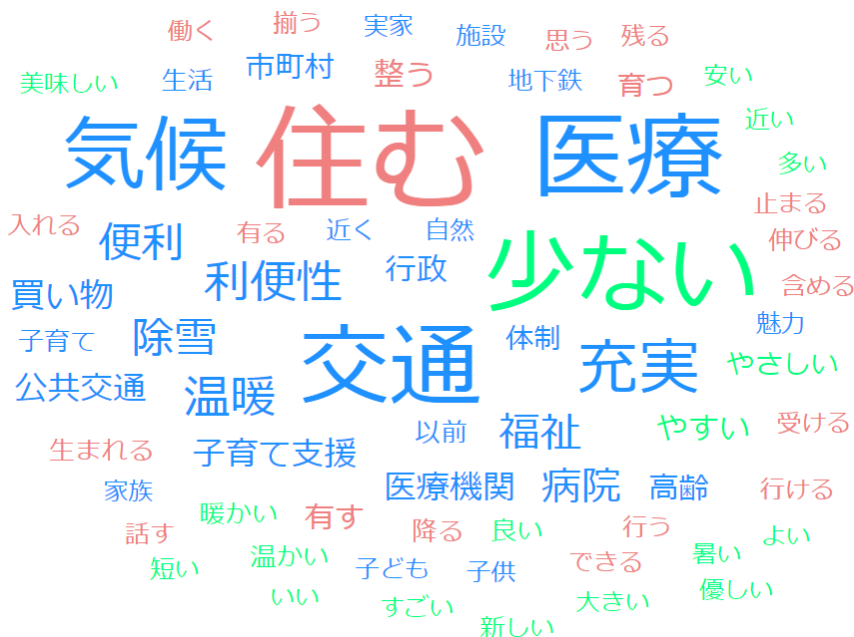
※道内 2 市町村の別の調査（20 歳以上アンケート）では、[住み続けたい] が全体の約 60%、[どちらともいえない] が約 35%、[住み続けたくない] が約 7% という結果だった。また独居高齢者のみを対象とした調査では、さらに [住み続けたい] の%が多くなる。当別町の結果はそれらと比較すると、[住み続けたくない] と [どちらともいえない] という回答者の割合が高い結果となった。

24. あなたが住んでみたいと思う市町村はありますか。全国どこでもよいので記入してください

当別町他札幌市など

理由をみてもみると、雪などの降らない地域や交通の便利なところ、医療機関の充実等が多くあげられていることがわかります。

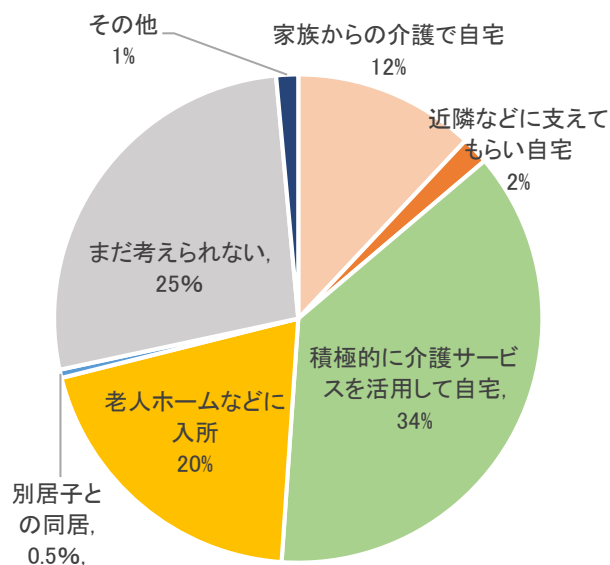
ワードクラウド



※ユーザーローカル テキストマイニングツール（<http://textmining.userlocal.jp/>）による分析

25. もしあなたに介護が必要になった場合、どのように生活したいと思いますか。

介護生活	Freq.	Percent	Cum.
家族介護	66	11.07	11.07
近隣なども	10	1.68	12.75
サービス利用	205	34.40	47.15
施設入所	110	18.46	65.60
子同居	3	0.50	66.11
考えられない	148	24.83	90.94
その他	8	1.34	92.28
欠損値	46	7.72	100.00
Total	596	100.00	

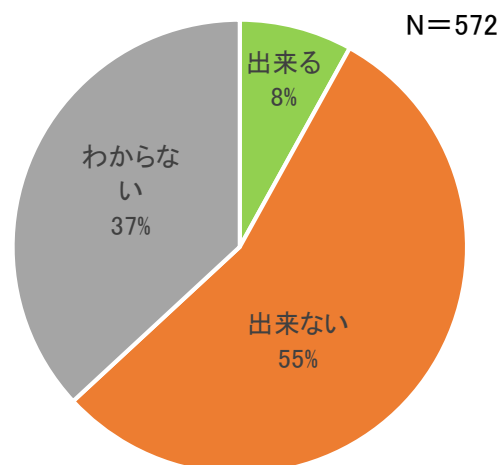


介護が必要になった場合、約半数の方が家族からの介護、近隣等に支えてもらい、積極的にサービスを活用して「自宅」で生活したいと回答されていました。特に、積極的に介護サービスを活用して自宅で…と考えられた方が、205名（34%）と最も多い結果となりました。家族介護だけでなく、介護サービスが浸透してきた結果と見て取ることもできますが、何より住み慣れた「自宅」でという思いを持っておられると解釈できます。また、「老人ホームなどに入所」も110名（20%）の方が回答しており、自宅以外の場所としての老人ホーム等が認知されてきたのかもしれない。

一方で、「まだ考えられない」と回答された方が2番目に多く、148名（25%）でした。18歳以上のアンケートになりますので、若い方の場合は特に介護が必要になった場合は考えられないと思います。

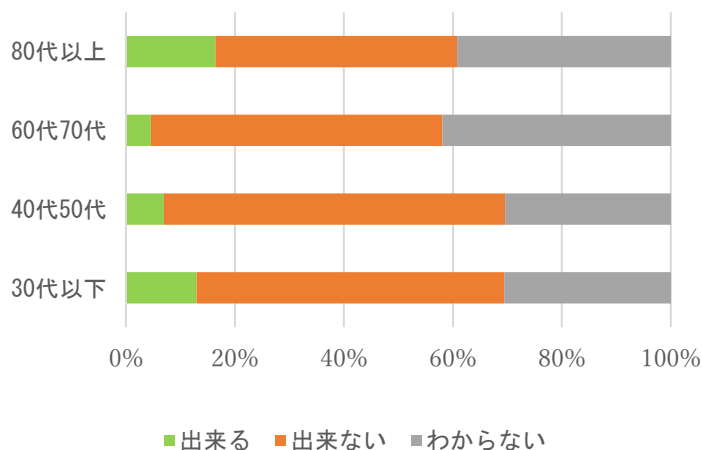
26. あなたが入院治療をしても治る見込みがない状態になった時、当別町で最期まですごせると思いますか

年齢カ テ	最期まで過ごせるか			Total
	できる	できない	わからな	
-30歳代	5	20	12	37
	13.51	54.05	32.43	100.00
40-50歳代	13	75	36	124
	10.48	60.48	29.03	100.00
60-70歳代	15	181	128	324
	4.63	55.86	39.51	100.00
80歳以上	13	35	31	79
	16.46	44.30	39.24	100.00
Total	46	311	207	564
	8.16	55.14	36.70	100.00



回答者の55%が入院治療をしても治る見込みがない状態になった時、当別町では最期まで過ごすことができないと考えているという結果でした。「出来ない」と考える理由については次頁を参照してください。

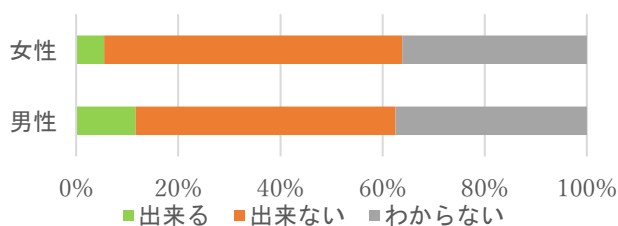
今回のアンケート調査では、出来ると考えておられる方が1割にも満たないという結果でした。



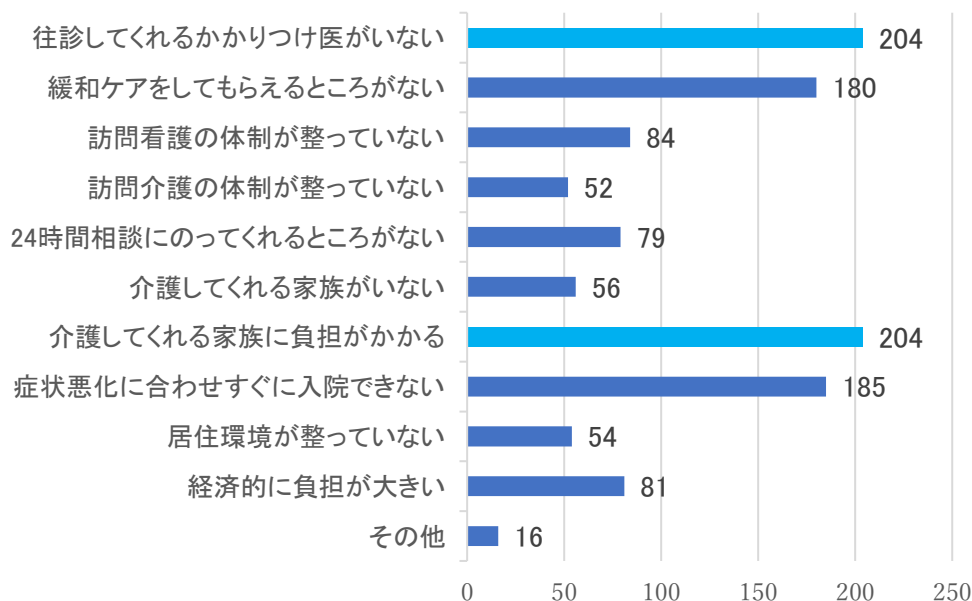
最期まで過ごせるか				
性別	できる	できない	わからない	Total
男性	28 11.67	122 50.83	90 37.50	240 100.00
女性	18 5.47	192 58.36	119 36.17	329 100.00
Total	46 8.08	314 55.18	209 36.73	569 100.00

年齢カテゴリーとの関連を見ると、有意水準1パーセントで有意でした。年齢が若いとそれだけ今後の人生も長いので、同じ場所にいるか否かは、まだ検討の余地があるといえます。

男性の方が最期まで当別町で過ごせると考えていることが明らかになりました。これは、有意水準5パーセントで有意でした。

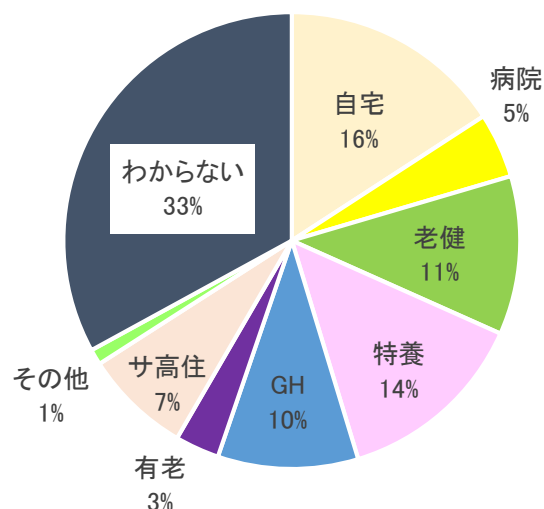


「出来ないと思う」とお答えになられた方にうかがいます。「出来ないと思う」理由すべてに○をしてください



27. あなたはご自分が認知症になったら、どこで暮らしたいと思いますか。

認知症の場合	Freq.	Percent	Cum.
自宅	86	14.43	14.43
病院	25	4.19	18.62
老健	61	10.23	28.86
特養	74	12.42	41.28
GH	54	9.06	50.34
有料老人H	17	2.85	53.19
サ高住	41	6.88	60.07
その他	6	1.01	61.07
わからない	179	30.03	91.11
欠損値	53	8.89	100.00
Total	596	100.00	

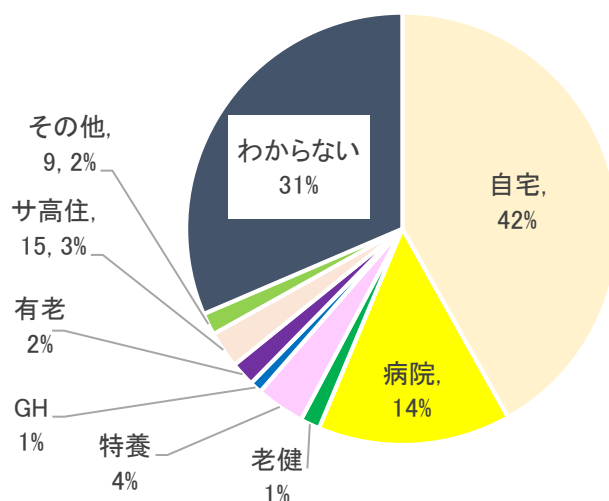


自分が認知症になった場合に暮らしたい場所については、[自宅]が16%、次いで特別養護老人ホーム（特養）14%、老人保健施設（老健）11%、グループホーム（GH）10%と介護サービスが含まれる施設に回答がわかれています。ある程度認知症や介護サービスが認知され浸透しているといえるのかもしれません。

一方で、[わからない]の回答が最も多く、33%と約3分の1の方が回答しています。おそらく現段階では認知症になっておられない中で想定が難しく、もしくは年齢が若い方であれば身近な疾病ではないことも影響しているのかもしれません。

28. あなたは人生の最期をどこで迎えたいですか。

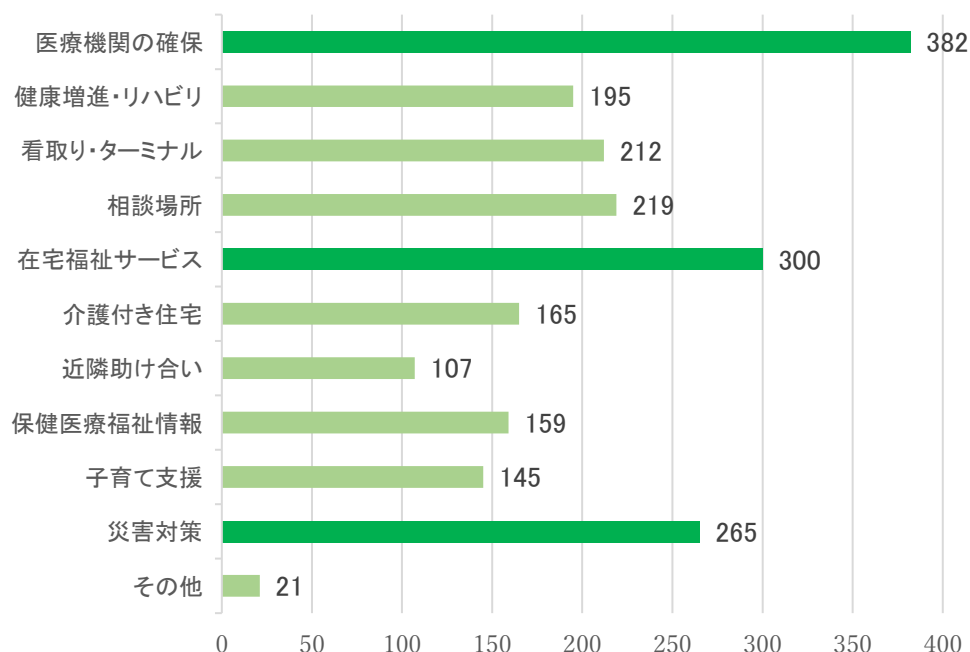
最期の場	Freq.	Percent	Cum.
自宅	229	38.42	38.42
病院	79	13.26	51.68
老健	8	1.34	53.02
特養	20	3.36	56.38
GH	5	0.84	57.21
有料老人H	10	1.68	58.89
サ高住	15	2.52	61.41
その他	9	1.51	62.92
わからない	172	28.86	91.78
欠損値	49	8.22	100.00
Total	596	100.00	



人生の最期の場所については、約4割の方が[自宅]と回答されていました。また、認知症の場合とは異なり、病院を選択される方が13%程度おられ、人生の最期に医療的なケアが必要になってくることを見越した選択といえるかもしれません。ターミナルケアや終末期医療について当別町ではどのように考えていくか、医療介護連携専門部会等でも検討されていますが、喫緊の課題といえるかもしれません。

一方で、30%程度の方は[わからない]と回答されています。年齢が若い方の回答といえるかもしれませんが、"人生の最期"を想定しにくいとも考えられます。

29. あなたが当別町で健康で安心して生活するために重要と考える施策すべてに○をつけて下さい



当別町で健康で安心して生活するために重要と考える施策は、1番に[どんな病気になっても対応可能な医療機関の確保]、次に[ひとりでも自宅で生活し続けられるような在宅福祉・生活支援サービスの充実]、そして[地震、風水害、雪害などに備える安全対策の充実]でした。本項目の健康増進・リハビリ、看取り・ターミナルの選択肢を含めて考えても、またアンケート調査の自由記述において医療体制への期待を多くの方が求められていましたし、次の質問項目でも第1に多くあげておられる施策でした。そして在宅福祉サービスの充実については、先の介護が必要になった場合の希望とも関連し、1人で暮らすご高齢の方が、介護が必要になっても安心して暮らしていける体制の構築が望まれているといえます。災害対策についても、特に雪害（雪かき）については、自由記述や次の項目の求められる施策においても多くの方が記載されている内容でした。どのようにその期待に応えていくのか考えていく必要があります。

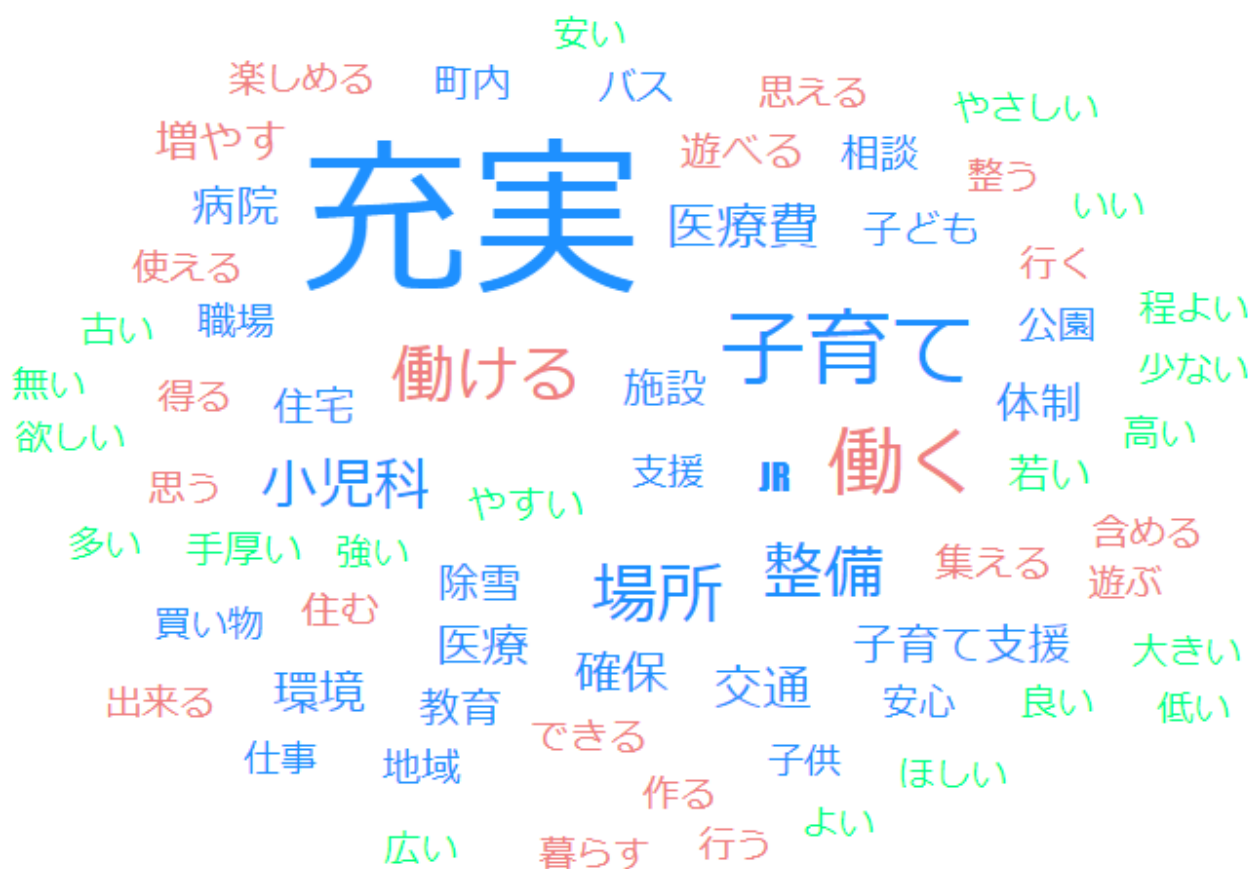
その他、[健康や介護の不安について等困ったときに何でも相談できる場所]についても、3分の1の方が選択している項目でした。相談する相手についての質問では家族や友人に集中し、なかなか専門機関への相談につながらない場合も多くあると考えられます。例えば、身近な相談場所から数珠つなぎに専門機関につながるような体制を構築する、各専門機関からチームを編成し相談を受けるなど当別町における重層的支援体制整備（包括的相談支援体制）を構築していく必要があると考えられます。

30. 当別町が若い世代にとって暮らしやすい町になるために必要だと思うことを3つ挙げてください

これまでの施策や自由記述の内容とは異なり、若い世代にとって暮らしやすい町になるための施策を3つ挙げてもらったことから、より焦点化した回答を得られたと考えます。

これまでの回答とも共有する、医療体制の充実や、買い物場所に対するものもある一方で、小児科や子育て、働く場、経済的支援などの充実が多く回答されていることは、特筆すべき内容だといえます。また飲食店や公園や遊ぶなど、生活に直結する医療や子育てだけでなく、若い世代の人たちが楽しめる場を求めているようにもみてとれます。

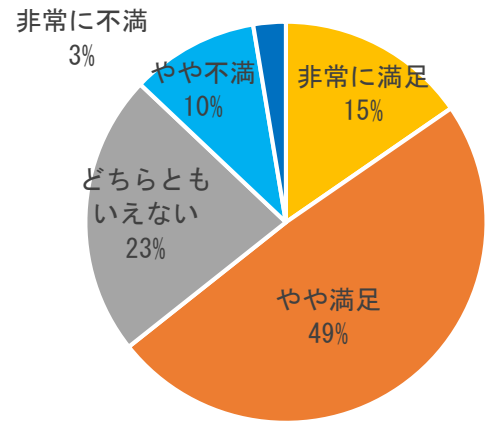
ワードクラウド



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<http://textmining.userlocal.jp/>) による分析

31. あなたは、現在のご自身の生活に満足していますか。

生活満足	Freq.	Percent	Cum.
非常満足	88	14.77	14.77
やや満足	280	46.98	61.74
どちらともいえない	130	21.81	83.56
やや不満	59	9.90	93.46
非常不満	15	2.52	95.97
欠損値	24	4.03	100.00
Total	596	100.00	



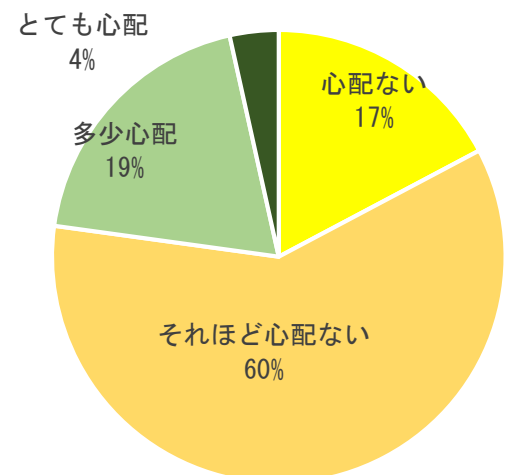
回答者の65%が自身の生活に「満足」されていましたが、「どちらともいえない」「やや不満」も3割程度おられました。

年齢カテ	生活満足					Total
	非常満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常不満	
-30歳代	7	16	14	0	0	37
	18.92	43.24	37.84	0.00	0.00	100.00
40-50歳代	18	55	27	18	7	125
	14.40	44.00	21.60	14.40	5.60	100.00
60-70歳代	49	157	72	31	7	316
	15.51	49.68	22.78	9.81	2.22	100.00
80歳以上	14	49	15	5	1	84
	16.67	58.33	17.86	5.95	1.19	100.00
Total	88	277	128	54	15	562
	15.66	49.29	22.78	9.61	2.67	100.00

年齢と生活満足度の関連は、有意水準パーセントで有意でした。年齢が高い方が高い満足度を保有していました。年齢が高い方が生活の満足度が高くなることは、先行研究においても知られています。ただ、その関係とは別に、若い階層においても、不満を持つ人の割合がきわめて低いことは興味深い結果でした。

32. あなたの現在の経済的な暮らし向きはいかがですか。当てはまるもの一つに○をしてください

経済的余裕	Freq.	Percent	Cum.
心配なし	99	16.61	16.61
それほど	344	57.72	74.33
多少心配	111	18.62	92.95
とても心配	20	3.36	96.31
欠損値	22	3.69	100.00
Total	596	100.00	



経済的余裕は、性別や年齢カテゴリーとは関連が見られませんでした。経済的余裕がまったくない方は、60歳代、70歳代に多くおられました。